

<p>2. 事業の目的と概要</p> <p>英文概要 : Most of indigenous girls and women in both cities of La Tinta and Tucuru, Alta Velapaz, Guatemala, are living with gender discrimination under gender norm of masculinity. To promote gender equality at target communities, the project focuses gender training and advocacy campaign targeting girls from 11-15 years old, their parents, teachers at primary schools, community leaders and municipals. The project also constructs/rehabilitates gender-friendly bathrooms for target primary schools to prevent girls from dropping out of school due to the menstrual period and ensure girl' s right to education.</p>	
(1) 上位目標	アルタ・ベラパス県ラ・ティンタ市およびチュクル市で女子にやさしい学習環境が整い、住民のジェンダー平等の意識が高まる。
(2) 事業の必要性 (背景)	<p><u>グアテマラ アルタ・ベラパス県における一般的な開発ニーズ</u></p> <p>中米最大の人口を有するグアテマラは、2012 年以降、毎年 3%以上の GDP 成長率を示し (世銀 2016)、経済成長を続けているものの、富は都市部の富裕層に集中し、貧困率および貧困の地域・民族間格差は大きくなっている。グアテマラの間開発指数は 0.492 であるが、アルタ・ベラパス県において同指数は 0.370 となり、グアテマラにある 22 県のうち最も低い数値を示している (UNDP 2014)。当事業の対象地、ラ・ティンタ市およびチュクル市は県内でも最も貧しい地域の一つにあげられる。背景には、山岳部でアクセスが難しい地理環境であること、両市とも 80%以上が先住民族ケチ族に属し、公用語であるスペイン語を解さないことが挙げられる。行政による援助は極めて少なく、現地で活動している国際 NGO は Plan International の他には存在せず、取り残された地域になっている。</p> <p><u>1. 対象地域におけるジェンダーの問題</u></p> <p>アルタ・ベラパス県はマチスモ (男性優位の考え方) という男性・男子を優遇する文化が根強い。女子は男子に比べ、あらゆる場面で権利や機会に恵まれない傾向にある。小学校高学年になると、親から学校に行くよりも、農作業や家事、きょうだいの世話など家の手伝いをするを求められ、退学を余儀なくされるなど、女子は男子に比べ、知識を身に付けたり、発言したり、自身の将来を考える能力を育むことが難しい環境にある。このような環境下で女子の人生は極めて受動的になる。その結果、女子は早すぎる結婚や出産を強いられて自立する機会を奪われるリスクにさらされている。</p> <p><u>2. 対象地域における小学校の問題</u></p> <p>女子生徒の多くは小学校高学年で初潮をむかえる。その時期を機に、学校を退学する生徒が増えている。その要因は、学校の衛生設備の未整備にある。安心して使用できる衛生設備がないため、現在、教師と生徒は近隣の民家のトイレを借りたり、屋外で用を足している。それは特に思春期の女子にとって厳しい状況である。加えて、教師はジェンダーについてトレーニングを受けていないため知識が乏しく、女子がおかれている環境やジェンダー平等への配慮に欠けている。学校が、女子にとって自身の権利や能力を肯定し、自分の将来を自分で決められる、と教える場になっていない。</p>

	<p>(参考資料 1 対象校基本データ 参照)</p> <p>以上の状況改善に取り組む当事業は外務省のグアテマラ国別援助方針 3. 重点分野 (中目標) (1) 「貧困地域の社会・経済開発」に合致する。</p> <p>SDGs 目標 4 4.1、4.5、4.a、目標 5 5.1、5.2、5.3 に貢献する。</p>
(3) 事業内容	<p>当事業では、ラ・ティンタ市およびチュクル市の各 5 コミュニティ (計 10 コミュニティ) で 3 年にわたり女子 (11-15 歳)、保護者、小学校教師、男子 (10-14 歳)、コミュニティリーダー、地方行政官の能力強化を行う。また、対象地域での啓発イベント開催や地方行政との対話を通してジェンダー平等を促進する。さらに、3 年間を通して小学校に女子生徒が安心して使える衛生設備を建設/修繕して女子生徒の退学を減らす。</p> <p>第 1 年次では、ラ・ティンタ市において女子とその保護者、教師、男子、コミュニティリーダー、行政官を対象にトレーニングを実施し、男性優位の社会にジェンダー (社会的性差) 平等の概念を紹介する。受講者はジェンダーとは何か、ジェンダー格差による弊害などを基礎から学び、女子の権利や能力に気づく機会となる。</p> <p>第 2 年次ではラ・ティンタ市における学びを活かしながら、ジェンダートレーニングをチュクル市に拡大する。また、第 1 年次にトレーニングを受けた女子クラブの代表に対しては指導者育成のためのジェンダートレーニングを行い、身につけた知識を行動に移していく能力を高める。また、住民の能力強化に加え、コミュニティ全体へジェンダー平等のメッセージを広げていくために啓発活動を強化する。なお、第 1、2 年次のトレーニングは基本的にスペイン語で行う。ケチ語も解する職員とトレーナーが担当するため、スペイン語を解さない参加者にはケチ語を用いて説明するなど、言語に配慮してトレーニングを進める。</p> <p>第 3 年次では、住民の能力強化を継続するとともに、住民と連携して国際ガールズ・デーでの啓発イベント、地元ラジオを利用した啓発活動を発展させる。また女子、男子、保護者と地方行政との間で対話によって、ジェンダー平等の促進、定着を目指し、特に女の子の権利が守られ、安全に成長できる地域づくりを促す。</p> <p>活動詳細は以下のとおり。</p> <p>1. コミュニティにおける能力強化</p> <p>1-1 ジェンダートレーニング</p> <p>1-1-1 女子クラブ [第 1-2 年次]</p> <p>対象 10 コミュニティから 11-15 歳の女子 35 人 (計 350 人) を選び女子クラブを設立 (第 1 年次は、ラ・ティンタ市 5 コミュニティ、第 2 年次はチュクル市 5 コミュニティで実施。対象は各市 175 人)。対象</p>

に、10回（各6時間）のトレーニングを実施する。女子クラブには、学校に通っている女子と学校に通っていない女子の両方を含める。トレーニングは、当団体が開発したマニュアルを使い、「ジェンダー（社会的性差）とは何か」といった基礎から学び、受講者が自らの権利を知り、自尊心を高めることを目的とする。最終回では、自分の将来を考える機会を提供し、目標を設定できるよう導く。

1-1-2 保護者【第1-2年次】

1-1-1の女子クラブメンバーの保護者計350人（第1年次はラ・ティンタ市5コミュニティ、第2年次はチュクル市5コミュニティで実施。対象は各市175人）に対し、ジェンダーに関する基礎知識、女の子の権利についてトレーニングを実施する。保護者が女子の可能性や権利を理解し、娘の目標達成をサポートする存在となるよう啓発する。

1-1-3 教師【第1-2年次】

小学校教師は、現在ジェンダートレーニングを受けていない。最初に、教師向けのトレーニングマニュアルを開発する。その後、まず各校校長への対話を通して、ジェンダー平等の重要性を知ってもらい、協力を仰ぐ。そして、教師64人（第1年次ラ・ティンタ市5コミュニティ35人、第2年次チュクル市5コミュニティ29人）に対して6回（各6時間）のトレーニングを実施する。教師が日々の学校での指導にジェンダーの視点を取り入れ、女の子の権利が侵害されないよう日常的に気を配ることができるよう促す。また男子のジェンダートレーニングを主体的に指導できるよう育成する。

当事業で開発した教師向けのトレーニングマニュアルは、当事業終了後も対象校の教師が各自で責任を持って管理し、引き続きトレーニング時に活用する。また、事業終了後、当事業をモデルとして他校への活動展開を図っていく際に、同マニュアルを増刷して使用するなど、最大限に当事業の成果を活かす。

1-1-4 男子【第1-2年次】

対象10コミュニティから10-14歳の男子計250人（第1年次ラ・ティンタ市5コミュニティ、第2年次チュクル市5コミュニティで実施。各コミュニティ平均25人）を対象に、10回（各4時間）のトレーニングを実施する。基礎的なジェンダーについての知識を身に付け、ジェンダー平等を目指す「肯定的な男らしさ」（女性への優しさ、礼儀正しさなどを包摂している男性性）について考えられるように育成する。なお、男子生徒へ学校におけるジェンダー平等への理解を促すため、教師はトレーナーとして積極的に参加する。

1-1-5 コミュニティリーダー【第1-2年次】

コミュニティリーダー計60人（第1年次はラ・ティンタ市5コミュニティ、第2年次はチュクル市5コミュニティで実施。対象は各コミュニティ6人）を対象に、トレーニングを実施する。コミュニティリーダーがジェンダーに関する基礎知識を身に付け、地域の人々に女の

子の権利を守るよう働きかける存在として育成する。

1-1-6 地方行政官 [第 1-2 年次]

対象 2 市の教育担当官はじめ地方行政官計 30 人（第 1 年次はラ・ティンタ市、第 2 年次はチュクル市で実施。対象は各市 15 人）を対象に、トレーニングを実施する。地域におけるジェンダー格差の問題点について理解を深めるとともに、女の子の権利が守られる地域づくりの実現を目指す。

1-2 ジェンダー指導者養成トレーニング（女子クラブ対象） [第 2-3 年次]

1-1-1 の女子クラブメンバーの中から代表者 40 人（第 2 年次はラ・ティンタ市 5 コミュニティ、第 3 年次はチュクル市 5 コミュニティで実施。対象は各市 20 人）を選び、リーダーシップ、発言、発信力の向上を目指すトレーニングを実施する。受講者がジェンダー格差を是正するための行動やイベントを計画・実施したり、地方行政に提言したりできるよう指導する。

1-3 学校改善計画の策定指導 [第 1-3 年次]

グアテマラの小学校では毎年度、教師と保護者が話し合い、より良い学校運営のための計画を立てる。これまでこの計画に、ジェンダーに関する内容が入れられたことはない。教師 64 人（第 1、2 年次ラ・ティンタ市 5 コミュニティ 35 人、第 2、3 年次チュクル市 5 コミュニティ 29 人）を対象に年 2 回、各 6 時間のトレーニングを通して、「学校内にジェンダーによる差別がないか」などジェンダーの視点を提案し、改善計画に含められるよう支援する。これによって、学校内のジェンダー意識が高まり、女子が快適に過ごせる学校づくりがなされる。

1-4 ジェンダートレーニング教材の製作指導 [第 3 年次]

第 3 年次には、教師が生徒や保護者を対象にジェンダートレーニングを実施していく。こうしたトレーニングで使用する教材を教師自らが身近な素材を使って製作できるように制作方法を指導する。

2. コミュニティ啓発活動

2-1 啓発活動トレーニング

2-1-1 ジェンダー平等促進員 [第 2-3 年次]

1-1-2 対象の保護者から、20 人の代表者を促進員として選定し、啓発活動を担っていけるようにトレーニングを実施する。それによって、促進員はコミュニティ内外でジェンダー平等推進のメッセージを拡散・定着に貢献する。

2-1-2 コミュニティリーダー [第 2-3 年次]

対象 10 コミュニティのリーダー計 60 人を対象に、女子クラブ、ジェンダー平等促進員の活動を支え、地域行政へジェンダー平等への働きかけができるよう育成する。なお、女子クラブ、ジェンダー平等促進

員とともに国際ガールズ・デーイベントをより充実したものにする役割を果たせるようにする。

2-2 地域対話交流

2-2-1 女子クラブメンバーと保護者 [第 3 年次]

国際ガールズ・デーの一環で女子と保護者がオープンに、家庭内、コミュニティ内でのジェンダー平等、女子の権利促進について楽しみながら話し合う。家庭レベルでジェンダー平等に取り組むきっかけとする。

2-2-2 女子クラブメンバーと地方行政 [第 3 年次]

国際ガールズ・デーの一環で、女子クラブ代表メンバーと地方行政官らが、地域でのジェンダー平等、女子の権利促進について話し合う。対話での学びを、行政運営へ反映するよう働きかける。

2-2-3 女子クラブメンバーと男子 [第 3 年次]

ジェンダートレーニングを受けた女子・男子それぞれが、特に学校生活におけるジェンダー平等の達成について話し合う。話し合いをもとに、女子にも男子にも学びやすい学校環境づくりを目指すきっかけとなる。

2-3 国際ガールズ・デーイベントの開催 [第 2-3 年次]

毎年 10 月 11 日の国際ガールズ・デーの前後に対象 2 市で啓発イベントを開催する(ラ・ティンタ市第 2-3 年次、チュクル市第 3 年次)。
1-1-1 対象の女子クラブ代表によるスピーチ、クイズ、ダンスや歌などを織り交ぜ、住民が集まり、楽しみながらジェンダーについて学べる内容とする。また、啓発用小冊子を配布して、地域に根強く残る男性優位の規範を考えるきっかけとし、ジェンダー配慮のある地域づくりに貢献する。

2-4 啓発キャンペーンの実施 [第 2-3 年次]

対象地域内外へジェンダー平等のメッセージを広げ、定着させていくため、住民やメディアを使ったキャンペーンを計画し、展開する。ジェンダー平等を誰にでも分かりやすいメッセージにして、地方ラジオ局で継続的に放送する、広報用ポスターを活用するなど、持続性があり、効果的な啓発活動とする。この活動にはトレーニングの受講者も深く関わる。

3. 学習環境の改善

3-1 対象 10 校の衛生設備(トイレ・手洗い場・多目的洗い場)建設／修繕 [第 1-3 年次]

女子が快適に利用できる衛生設備を整備する。教育省が指定するトイレ棟 1 棟に男女各 2 基と手洗い場と多目的洗い場を備えた設計を採用し、生徒 25 名に対して 1 基確保できるようにする。第 1 年次は衛生設備がない 3 校で合計 5 棟を建設する。

	<p>(参考資料 2 第 1 年次建設対象校リスト 参照)</p> <p>3-2 維持管理トレーニング [第 1-3 年次] 整備した設備は学校に譲渡し、学校が維持管理の責任を負う。設備が適切に使用、維持管理されるように生徒と教師を対象にトレーニングを行う。なお、生徒会が中心となって設備の清掃を行うが、ゴミ箱やほうきといった道具は当事業にて支給し、施設の維持管理のために役立てる。 ほうき等の消耗品購入費や修繕費などはPTAが拠出する維持管理予算を充当するなど、学校単位で対応できる体制を整えることで、事業終了後も設備が衛生的に維持管理されていく。</p> <p>4. その他</p> <p>4-2 事業関係者ワークショップ 事業開始時に、現地教育担当官をはじめとする地方行政官、コミュニティリーダーの当事業への参加を促進し、より良い計画をつくることを目的に行う。当団体職員は、講師およびファシリテーターの役割を担う。</p> <p>(参考資料 3 トレーニングリスト 参照)</p> <p>直接裨益者数：合計 6,481 人 間接裨益者数：合計 89,378 人 (対象 2 市全人口)</p> <p>なお、当事業で取得した車両、パソコンは第 3 年次事業終了後、地方行政へ譲渡し、事業の効果を持続させるために役立てる。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>当事業は地域住民の能力強化と有効な啓発活動を通して地域のジェンダー平等の促進を目指す。男子や男性を含む多くの住民がその重要性を理解し、意識と行動が変われば当事業の成果は持続すると期待できる。また当事業が開発・制作する教師向けジェンダートレーニングマニュアルやポスターなどの広報用ツールは、事業完了後も活用され、その後のジェンダー平等促進に貢献し続ける。</p> <p>衛生設備は、使用や維持管理の方法について、教師と生徒へのトレーニングを徹底することで事業終了後は学校が責任を持って維持管理を続けられる。当事業対象地域は、プラン・インターナショナル・ジャパンとプラン・インターナショナル・グアテマラが連携し、10 年以上にわたり地域開発活動を行っている地域である。コミュニティと良好な関係があり、当事業終了後も他の活動を継続する予定である。よって当事業の終了後、当団体によるモニタリングが可能である。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>1. コミュニティにおける能力強化 指標： ・女子クラブのジェンダートレーニング受講者（以下「女子クラブ受講者」）の 80%が 10 回のジェンダートレーニングを修了する [第 1-2 年次] ・女子クラブ受講者の 80%がジェンダーについて理解し、トレーニン</p>

グ後テストで正答率が 80%以上になる [第 1-2 年次]

- ・女子クラブ受講者の 80%が人生の目標を設定する [第 1-2 年次]
- ・教師の 80%が全てのジェンダートレーニング (6 回) を修了し、学校におけるジェンダー平等の定義 3 点を把握する [第 1-2 年次]
- ・男の子の 80%が全てのトレーニング (10 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる [第 1-2 年次]
- ・保護者の 80%が全てのトレーニング (4 回) を修了し、女子クラブトレーニングへの参加をサポートする [第 1-3 年次]
- ・地方行政官の 80%が全てのトレーニング (3 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる [第 1-2 年次]
- ・女子クラブ受講者がジェンダー格差を改善するための提言書を地方政府に提出する [第 2-3 年次]

確認方法：トレーニング前/後テスト、受講者リスト、受講者 (女子) 日記、教師、保護者、生徒からの聞き取り

2. コミュニティ啓発活動

指標：

- ・ジェンダー平等促進員、コミュニティリーダーが全てのトレーニング (2 回) を修了する [第 2 年次]
- ・ジェンダー平等促進のための啓発イベントが開催される [第 2-3 年次]
- ・ジェンダー平等啓発メッセージがラジオを使って放送される [第 2-3 年次]

確認方法：受講者リスト、イベント計画、ラジオ放送記録など

3. 学習環境の改善

指標：

- ・対象 10 校の衛生設備が建設・修繕される [第 1-3 年次]
- ・対象 10 校に通う女の子の 80%が学校の衛生環境の改善を実感する [第 1-3 年次]
- ・対象 10 校の生徒の 80%が衛生設備の維持管理方法を知っている [第 1-3 年次]

確認方法：生徒からの聞き取り、トレーニング事後テスト、学校視察など

【第 1 年次の成果と成果を測る指標】

1. コミュニティにおける能力強化

指標：

- ・女子クラブのジェンダートレーニング受講者 (以下「女子クラブ受講者」) の 80%が 10 回のジェンダートレーニングを修了する
- ・女子クラブ受講者の 80%がジェンダーについて理解し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる
- ・女子クラブ受講者の 80%が人生の目標を設定する

	<ul style="list-style-type: none">・教師の 80%が全てのジェンダートレーニング (6 回) を修了し、学校におけるジェンダー平等の定義 3 点を把握する・男の子の 80%が全てのトレーニング (10 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる・保護者の 80%が全てのトレーニング (4 回) を修了し、女子クラブトレーニングへの参加をサポートする・地方行政官の 80%が全てのトレーニング (3 回) を修了し、トレーニング後テストで正答率が 80%以上になる <p>確認方法：トレーニング前/後テスト、受講者リスト、受講者 (女子) 日記、教師、保護者、生徒からの聞き取り</p> <p>2. コミュニティ啓発活動 ※第 2 年次より活動</p> <p>3. 学習環境の改善 指標：</p> <ul style="list-style-type: none">・対象 3 校の衛生設備が建設される・対象 3 校に通う女の子の 80%が学校の衛生環境の改善を実感する・対象 3 校の生徒の 80%が衛生設備の維持管理方法を知っている <p>確認方法：生徒からの聞き取り、トレーニング事後テスト、定期学校視察など</p>
--	--

(ここでページを区切ってください)